「We Love コミュニケーション」のリストバンドに思いを…

大山 富士子

高知県

町の街路樹に巨大な椰子が並ぶ、南国高知。
幕末、維新の裏の立役者　坂本龍馬は、いま、
地元町おこしのヒーローとなっている。

大山富士子さんは、高知市の設置手話通訳者をされている。
１人職場でもあるので、少々の体調の悪い時も出勤し、全力で励んでいる。
「私は、縁の下の力で十分です」と今回の取材も、躊躇されていたそうですが、
県聴覚障害者協会や全通研高知支部の何人もの方からの
個別による説得攻勢にあい、ご登場いただくことになりました。
控えめでシャイで、時々「天然」混じりな人。（すいません！）
ただ、それだけにはとどまらない独特の魅力に満ちている。

いつも「We Love コミュニケーション」の
リストバンドをつけている

世の中、個性は十人十色。大山さんの「天然」がさく裂した時は、周りの仲間たちから、
瞬時にして、幾重ものナイスフォローが入る。絶妙のチームワークが大山さんの周りにある。
「私は、周りに支えられているだけですから」と謙遜する彼女の得意技は、
相談者の話をじっくり聞くことで、怒りのクールダウンをさせること。
その後、問題解決に導く作業を力強く、確実に見事にこなしてゆく。
問題の解決能力、スピード感、確実な信頼に対し、仲間からは絶賛の声が上がる。
仲間の個性の凸と凹を、お互いに助け合うことで、信頼の絆をより深くしている。

高知県聴覚障害者センターにて

高知市役所手話相談室

「聴覚障害者とカラオケ」と聞いた時、「？」と思ったが、驚いた。
カラオケを手話で表現したら、
一般的なカラオケ以上の、新鮮な世界があった。
ろう者の豊かで味わい深い表現は、
歌詞に込められた、情景、情念を目の前に再現する。

カラオケでろう者の手話に魅了される

手話講座担当講師忘年会にて

桂浜にて

ご自宅にてご主人と

いつでも、どこでも、誰とでも自由に
コミュニケーションできる素晴らしい世界は、
１つずつ凸や凹を埋めていくことで、
叶うような気がする。

写真/文　松本 博